

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分
感染性胃腸炎検出状況

検出菌 ウイルス	2024年											2025年									
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月 ～4日	5月 ～11日	5月 ～18日	5月 ～25日	6月 ～1日		
カンピロバクター	38	25	57	50	39	41	50	50	37	36	18	14	38	22	3	4	8	7 (8)	5		
病原性大腸菌	105	92	79	76	83	70	86	49	46	33	23	107	90	91	11	18	21	19 (21)	14		
腸管出血性大腸菌	1	0	1	2	1	6	2	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	1	1		
サルモネラ	2	7	5	8	12	29	13	12	7	6	1	3	8	3	1	2	0	3	2		
黄色ブドウ球菌 MSSA	16	4	12	21	11	17	24	5	6	4	14	15	6	8	2	3	0	4	0		
黄色ブドウ球菌 MRSA	12	6	3	10	8	6	21	12	8	13	9	9	14	13	3	2	0	3 (4)	2		
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
その他	0	0	1	3	1	5	1	2	0	1	0	3	2	1	0	0	1	0	0		
ロタウイルス	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	8	9	10	0	1	0	0	0		
アデノウイルス	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	3	4	4	2	0	0	0	0		
ノロウイルス	10	3	4	0	1	1	1	0	0	0	0	11	37	10	1	1	2	2	1		

()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC)
感染症週報

令和7年第22週(5月26日~6月1日)

2. 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	5	結核	5	1	1	1		1		1
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症	1	1						
四類	5	日本紅斑熱	4		1				1	2
		レジオネラ症	1					1		
五類	98	水痘(入院例)	1					1		
		梅毒	7					2		5
		播種性クリプトコックス症	1			1				
		百日咳	89	14	16	20		28	6	5

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中市、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

週報③

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター 広島市感染症週報

令和 7年22週(5月26日～6月1日)

■コメント

1 伝染性紅斑

定点当たり2.95人と、多い状況が続いています。感染経路は、飛沫感染、接触感染です。妊婦が感染すると胎児水腫や流産を引き起こす可能性があるため、注意が必要です。

2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たり4.14人と、多い状況が続いています。感染経路は、飛沫感染、接触感染です。手洗い、咳エチケットなどの感染予防対策を心がけましょう。

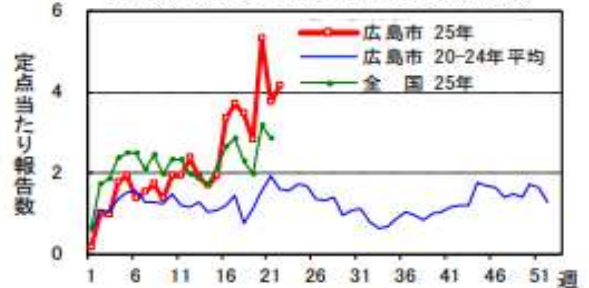
3 百日咳

28件の報告があり、多い状況が続いています。いずれの年齢でもかかりますが、乳児では重症化しやすく特に注意が必要です。

4 流行性角結膜炎

定点当たり2.13人の報告があり、増加しています。アデノウイルスを原因とする急性の結膜炎で、感染力が強く、小児から大人まで幅広い年齢層で見られます。手洗いの励行、タオルの共用を避けるなど、感染予防対策を心がけましょう。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間(注)	発生記号
ARI	急性呼吸器感染症(ARI)	2432	71.53			小児科	突発性発しん	6	0.27	0.41	
	インフルエンザ	8	0.24	0.44			ヘルパンギーナ	2	0.09	0.19	
	新型コロナ(COVID-19)	25	0.74				流行性耳下腺炎	4	0.18	0.06	
小児科	RSウイルス感染症	2	0.09	1.26		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	咽頭結膜熱	19	0.86	0.50			流行性角結膜炎	17	2.13	0.45	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	91	4.14	1.61		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	感染性胃腸炎	162	7.36	4.95			無菌性髄膜炎	-	-	0.06	
	水痘	6	0.27	0.12			マイコプラズマ肺炎	2	0.33	-	
	手足口病	9	0.41	0.88			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	伝染性紅斑	65	2.95	0.02			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.17	-	

急増減 ↑ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ↓ 前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減

微増減 ⇄ 前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減

横ばい ⇄ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

急性呼吸器感染症(ARI) 定点数(内科・小児科)	34
小児科 定点数	22
眼科 定点数	8
基幹 定点数	6

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	49	80歳代
4	レジオネラ症	1	8	70歳代・市外
5	水痘(入院例に限る)	1	2	40歳代
5	梅毒	2	61	20歳代・2人
5	百日咳	28	294	10歳未満・4人、10歳代・12人、20歳代・2人、30歳代・1人、40歳代・4人、50歳代・3人、60歳代・1人、80歳代・1人